

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	一般レストラン （経営者）	販売量の動き	・長距離フェリーを利用した関西からの客が大量に流れ込んでおり、特に夏休みの学生が多い。個人客よりツアー等団体の客が多い。
	やや良く なっている	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・現状は悪くなっているが、3か月前に比べると若干上向きになっている。客の低価格志向により、客単価は厳しいが、販売量が3か月前と比べて増えている。
		百貨店（売場担当）	販売量の動き	・来客数は3か月前と比べて横ばいであるが、商品の売行きはかなり上向いている。紳士部門の売上は前年比14%増、婦人衣料品で同3%増、食品では同7%増と売上をけん引している。米国の大手金融機関の破たん以降では最大の伸びとなる。最終的に前年比97%程度となり、これまでに比べるとかなり良い。8月に入り、急に夏モードとなり、益以降かなり数字が良くなっている。ただ依然として来客数、単価は若干落ち
	変わらない	百貨店（営業企画担当）	販売量の動き	・7月の長雨の影響もあり、8月に入って好調に推移しており、店頭ベースでは徐々に前年実績を超えている。しかし、外商や宝飾品については依然低調に推移している。
		コンビニ（エリア担当・店長）	販売量の動き	・朝夕の気温が下がり、秋物商材のおでんや中華まんの販売が好調に推移している。また日中は天候も良く、気温の高い日が続いており、販売動向は好調である。
		自動車備品販売店（従業員）	お客様の様子	・高速道路料金引下げの影響で、お盆前のETC車載器、カーナビの売上が増加した。
		高級レストラン（支配人）	単価の動き	・月を追うごとに来客数が増え、客が注文する料理も単価の高い物が増えている。売上もわずかながら増えている。
		観光型ホテル（営業担当）	来客数の動き	・地元宴会等は横ばいの状況であるが、宿泊利用客は前年比18%増となっている。
		ゴルフ場（支配人）	来客数の動き	・企業コンベ数は相変わらず低迷しているが、少人数の若者、女性グループの動きがやや上向いている。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・販売状況を見ると、企業関係や官公庁関係の受注がかなり減っており、受注が伸びる要因は今のところない。
商店街（代表者）		来客数の動き	・中元セールや盆、盆過ぎも来街者は少なく、客単価もかなり下がっている。	
商店街（代表者）	来客数の動き	・長梅雨で客足が途絶えていたが、梅雨明けしてからは回復傾向にあり、3か月前とあまり変わらない。		
商店街（代表者）	単価の動き	・客単価が前年比12%ほど落ち込んでいる。夏のボーナスの支給額の減少が一因となっている。		
一般小売店〔青果〕（店長）	お客様の様子	・し好品である果物関係の動きがかなり鈍い。長雨で野菜、果物が高騰している影響もかなりある。		
一般小売店〔茶〕（販売・事務）	販売量の動き	・お中元時期に入り、全品販売価格を下げた売出しを試みたが、安価な商品から先に売れている。来客数も例年に比べ減少している。依然として景気は落ち込んでおり、回復はしていない。		
百貨店（売場主任）	お客様の様子	・価格が安くても本当に必要な物しか買わない傾向が継続しているが、通常は展開していない商品のイベントを行ったところ良い結果が出た。以前とは違い、新しい商品には若干食指が動くようになっている。		
百貨店（営業担当）	お客様の様子	・中元ギフトの店頭受注は好調に推移したが、外部受注は前年並みである。また客は送り先を削減しており、消費への慎重な姿勢は続いている。一方、下旬のギフト解体催事は例年と同様に好調であり、特に自家用食品が好調に推移している。衣料品は伸び悩んでいる。		
百貨店（営業担当）	販売量の動き	・売上は食料品を除き、前年比マイナスで推移している。		
百貨店（企画）	販売量の動き	・中旬までは7月の中元商戦の遅れを取り戻す動きがあり、やや上向きに推移した。しかし中旬以降は、婦人服を中心に処分セールが低調に推移したことや総選挙の影響もあり、苦戦している。総じて3か月前と変わらない売上傾向である。		

百貨店（業務担当）	お客様の様子	・夏物処分期に入り、価格は最終処分価格になっているが、前年と違い、まとめ買いをする客が減っている。最終処分価格になっても必要か不要かを吟味して買う客が多く、購買率も低い。
スーパー（経営者）	販売量の動き	・来店はあるが無駄な物を買わない傾向がある。また、全体的に相場が高くなっており、客が購入する商品量はなかなか増えない。
スーパー（店長）	販売量の動き	・天候不順と総選挙の影響により売上の確保が容易でない。特に生鮮食品の販売状況が厳しい。
スーパー（店長）	単価の動き	・長雨の影響で衣料品の売上は前年比60%台となり、厳しい状況である。食料品も野菜の高騰により売行きが悪く、厳しい。全体的には前年比98%で推移している。
スーパー（総務担当）	お客様の様子	・お中元を贈る相手を絞り込み、出費を抑える傾向がある。
コンビニ（エリア担当）	それ以外	・梅雨明けが遅かったため、夏場商品の売行きが極端に悪く、売上は大幅に落ち込んだ。また不安定な天候が続き、店の品ぞろえ、キャンペーン等が成功せず、厳しい状況が続き、状況は依然最悪である。
衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・単価の高い物はなかなか動かず、暑さのせいもあり、来客数も増えない。
家電量販店（店員）	販売量の動き	・天候不順が続き、期待したエコポイント制度も効果はあまり得られなかった。
家電量販店（総務担当）	販売量の動き	・相変わらず季節商材の動きが鈍く、好調な薄型テレビでもばん回できない。
乗用車販売店（管理担当）	販売量の動き	・自動車販売において重量税の減税、補助金制度を活用した購入が多い。補助金25万円を受け取れる車齢13年を超える車を所有する客は4割程度となっており、依然、受注販売は良好である。
乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・景気対策が効いており、販売量が若干回復しているが、全体的には景気低迷を抜け出せない。
その他専門店【コーヒー豆】（経営者）	お客様の様子	・来客数は3か月前比、前年比共にほぼ同じ水準である。しかし長雨の影響で客単価は若干減っている。
その他専門店【書籍】（店長）	販売量の動き	・エコカー減税対象の車やエコポイントの付与される家電商品は確かに動いているが、それ以外の物は相変わらず動きが鈍い。明らかに大企業向けの政策ばかりで底辺の人達は苦労している。
その他専門店【ガソリンスタンド】（統括）	お客様の様子	・賞与が支給され、個人消費に期待しているが、前年とほぼ変わりがない状況である。客の様子は雇用不安もあり、お金は貯蓄に回す傾向がみられる。
その他小売の動向を把握できる者（ショッピングセンター支配人）	単価の動き	・買上点数は横ばいであるが、買上単価の低下と高額商品の買い控えがある。
高級レストラン（専務）	来客数の動き	・総選挙が終わると景気は少し上向くという感じもするが、未知数である。景気は悪いまま推移している。
都市型ホテル（総支配人）	来客数の動き	・地元製造業の底打ち傾向がみられ、上昇傾向になっているという話が聞かれる。一方でサービス業の来客数は依然として回復しない状況である。
都市型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・宿泊とレストラン部門の単価の減少が続いている。
都市型ホテル（副支配人）	販売量の動き	・個人客の動きは依然なく、団体客の動きは多少あるが、新型インフルエンザの影響が出始めてから、前年比10%の減少となっている。
旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・先月はやや上昇傾向にあったが、ここに来て長雨や9月の大型連休への旅行控え等悪条件が重なり、旅行需要は低迷している。高速道路料金引下げの影響もあり、沖縄、北海道などの旅行が売れていない。
旅行代理店（業務担当）	販売量の動き	・依然、景気悪化から抜けきれず、単価の高い旅行プランが売れない。また景気悪化以外にも新型インフルエンザや総選挙等マイナス要因が多い。
タクシー運転手	お客様の様子	・団体の旅行客は増えても夜は外出せず、昼は観光地だけの移動となっており、タクシー利用は全くない。
タクシー運転手	来客数の動き	・イベントが多く、横ばいで推移している。道路には県外ナンバーの車が目立った。
通信会社（管理担当）	それ以外	・相変わらず資金繰りが厳しい。

	通信会社（営業担当）	お客様の様子	・消費者の携帯電話の買換えが非常に少なくなった。
	通信会社（総務担当）	お客様の様子	・不況にもかかわらず、順調に計画を達成している。しかしこれは企業努力の結果であり、消費者の動向は芳しくない。
	テーマパーク（職員）	来客数の動き	・夏休み期間の個人客はお盆期間をピークに土日にはぎわったが、全体的にはほぼ横ばいの状況である。ゴルフについても同様となっている。
	美容室（経営者）	単価の動き	・夏休みということもあり、売上は上がる見込みであったが、客の財布のひもは固く、客単価は上がらない。
	音楽教室	お客様の様子	・提携会社の事業悪化が明るみに出たり、悪化していた会社が持ち直したりと様々である。このような状況から急に良くも悪くもならない。
	設計事務所（所長）	販売量の動き	・学校の耐震診断を継続して行っている程度で、仕事は増えていない。
	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・問い合わせや単価、物件の動き等を総合してみても景気は良くもなく、悪くもなく変わらない。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	単価の動き	・価格競争の激化で単価は低くなるばかりである。販売量は変わらず、売上は落ちる。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・商店街は年配客が多く、空調設備もない。近隣スーパーでは空調設備も伴い、営業時間の延長やタイムサービス等があり、客はそちらに流れる。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・前年の10月から景気が悪い状況がずっと続いている。消費者の自己防衛意識も続いており、商品を買わない客が多い。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・車の交通量は多いが、なかなか買物客は増えず、客単価はとても低い。
	スーパー（店長）	単価の動き	・先行き不安による消費意欲の低迷は継続しており、客単価が上がる傾向はなく、回復の兆しがみえない。
	スーパー（店長）	単価の動き	・客の買上単価が100円ほど落ちている。買上点数は変わらないが、1点当たりの買上単価が落ちている。
	スーパー（店長）	来客数の動き	・前年比をみると、客単価、買上点数より来客数が3%低くなっている。紳士服を始め服飾雑貨の売上は更に低い。
	スーパー（店長）	お客様の様子	・中元ギフトは前年より3%減少している。高速道路料金引下げの影響で盆時期の帰省客が増えており、地場産業の手土産関連が好調に推移し、前年比110%と伸長した。まとめ買いも目立っている。衣料、住関連は盛夏物の早めのバーゲンを実施したが、天候不順で全体的に低調であった。
	スーパー（総務担当）	来客数の動き	・来客数は若干の減少であるが、買上客数ははかなりの減少となっている。また、低単価商品の購入が多い。
	スーパー（経理担当）	販売量の動き	・冷夏や長雨の影響で飲料や乾麺、アイスクリームなどの夏物商材の動きが悪い。また全体的に来客数も減少し、売上も減少傾向にある。業界動向をみても消費縮小の傾向がみられる。
	コンビニ（エリア担当・店長）	販売量の動き	・たばこのまとめ買いの客が減り、1個だけの購入が増えた。
	コンビニ（販売促進担当）	お客様の様子	・予算の前年割れの状況が続いており、厳しい。
	住関連専門店（経営者）	来客数の動き	・毎月行っているキャンペーンは相変わらず不調である。最近は特に来客数が少ないが、盆明けに婚礼家具の動きが少しあった。
	スナック（経営者）	来客数の動き	・来客数は過去最低となっており、特に団体客が減っている。
	観光型旅館	販売量の動き	・訪問客の節約志向が顕著に出ており、売上を落としている商店が多い。旅館も客単価が落ちてきている。
	タクシー運転手	来客数の動き	・客の動きが大変悪く、大きなイベントが開催されてもタクシーの利用は全くなく、今月の売上は例年に比べ2割以上落ち込んでいる。また、他社をリストラされた運転手が何名か入ってきている。
タクシー運転手	お客様の様子	・盆や土日の車利用が多く、公共の交通機関を使わないので、タクシーの動きも非常に悪い。例年の夏休みに比べ70%程度しか稼働していない。	
通信会社（企画担当）	販売量の動き	・販売促進の競争が過熱気味であり、販促費の費用対効果は下がり、販売数も下がっている。	

		通信会社（業務担当）	単価の動き	・先月に引き続き夏のキャンペーンが実施されたが、商品価格の値上げがあり、客の買い控えが続いている。販売台数は前年比で大幅に減少し、作業料の収入増などで収益をなんとか確保している状況である。
		ゴルフ場（従業員）	単価の動き	・近隣のゴルフ場の値引き競争が激しく、四苦八苦しながらイベント等の割引企画で客を集めている。来客数は少し伸びているが、客単価が落ち、全体的な売上は落ちている。また地域の夏祭りも縮小気味で景況感は良くない。
		美容室（店長）	お客様の様子	・天候が良くない影響もあり、やや悪い。
		美容室（店長）	お客様の様子	・清掃用品のレンタルをしている客の話題では、レンタル料金を引き落としにしている取引先は何とか契約が続いているが、集金のところは契約の取り消しが多くなっているとの話である。
悪くなっている		商店街（代表者）	販売量の動き	・販売量、客単価、販売数はいずれも非常に減少しており、売上全体が非常に悪い。
		一般小売店〔鮮魚〕（店員）	来客数の動き	・売上は前年比で2～3割落ちている。来店数が減り、売上も上がっていない。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	販売量の動き	・ギフトがメインの花屋であるため、例年通り売上は落ちている。
		百貨店（営業担当）	競争相手の様子	・近隣商店街の空き店舗が依然として増え続けている。また、百貨店も売上不振により撤退するテナントが増えており、百貨店の中にも空き店舗が発生している。
		スーパー（企画担当）	販売量の動き	・景気は依然として悪く、消費者の低価格志向や買い控えの傾向は継続している。加えて梅雨明けが非常に遅れたことで夏物商材である焼肉等のスタミナ食材や涼味商材、ビール等の飲料、アイスクリームの動きが悪い。チラシ商材や商材の選定、価格設定について競合店と比較すると優位性に欠けている。来客数、買上点数、1品単価いずれも不調である。特に買上点数が低迷している。
		衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・冷夏に加え総選挙があり、全く売れていない。
		衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・今まで値段にはこだわらなかった客が値段にこだわるようになってきている。安い値段と良質のバランスもこだわって仕入れにも気を配ることが重要となっており、難しくなっている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・8月は休みも多く、例年、赤字予算で組まれる。
		高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・総選挙で企業が動かなくなり、接待数が激減したため非常に悪い月であった。
		高級レストラン（従業員）	来客数の動き	・高校野球もあり、忙しくなっていたが、冷夏となり客の入りが悪かった。
	その他飲食〔居酒屋〕（店長）	来客数の動き	・不景気のどん底で客の動きがまるでない。開店休業が何日も続き、最低の8月であった。	
企業動向関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量は3月前と比べれば良くなっている。季節的な要因を踏まえれば当然の事であるが、新規の商品やユーザーも徐々に増えつつある。
		電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・受注量が少し戻っており、太陽光関係に動きが出てきたため、これから少しずつ実績につながっていく。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・自動車生産が増えている。
		輸送用機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・受注量、生産量の実績をみると、予算、実行と比較して、実績が予算、実行予算を下回らない月が続いている。
		新聞社（広告）	受注量や販売量の動き	・一過性の現象であるが、総選挙関連の新聞広告の増加により、売上が前年比増となっている。
変わらない	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・本格的な夏に入り居酒屋関連の売上は、ビール等の消費に比例して前年度並みの動きである。ただ消費者の防衛意識からスーパー関連や加工食品メーカー向けの引き合いが伸びていない。夏のギフトは売上、数量とも前年を上回ったが、利益率において前年を下回っている。	

	繊維工業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・発注が少なく、例年に比べかなり悪い。
	家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・商業施設の大型物件が九州では1件のみの状況となり、受注するためにダンピングしている業者がほとんどである。少ない物件に多数の業者が群がっており、2次下請に回る予算は原価に近づいている。
	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・商社の荷動きが相変わらず悪い。低価格商品の企画がいくつか入った程度であり、売上は前年比3割ほど減少している。
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・3か月前に引き続き受注案件がほとんど無く、やむを得ず一時帰休を続けなければならない状況である。
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・3か月前と変わらずどん底の状態が続いており、景気回復は全く感じられない。特に新規品の金型受注が全くない。
	建設業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・リフォームや小口工事の受注は持ち直してきたが、新築等の大型工事の発注が低迷している。
	輸送業	受注量や販売量の動き	・荷物の量が増えない。
	通信業（経理担当）	取引先の様子	・異業種の会合で、公共投資の削減により経営状況が厳しいという話をよく耳にする。今後、どのように変化していくか、総選挙が大きな転換点となる。
	金融業	取引先の様子	・報道等によれば生産は回復しつつあると言うが、取引先の様子から生産の回復は感じられない。中小企業の受注、生産、雇用はいずれも3か月前と変わりなく、厳しい状況が続いている。
	金融業（営業職 渉外係）	取引先の様子	・取引先の業績はほとんど回復しておらず、回復の兆しすらみえないところも多い。売上が思うように伸びず、資金繰りが厳しくなっており、緊急融資制度を借り入れたばかりの企業が突然破たんするケースも増え始めている。
	金融業（営業担当）	取引先の様子	・中小企業のなかでも飲食店は新型インフルエンザへの警戒感から夏休みにもかかわらず客足は減り、3か月前と比べても売上の低迷が続いている。
	金融業（得意先担当）	取引先の様子	・工事の発注量を見ると、3か月前と比べて特段大きな変化はない。夏場は発注が少なく、かなりの企業の資金繰りは厳しい状況にある。ただ、今後県を始めとした公共工事の前倒し発注が見込まれていることから、若干ではあるが運転資金の需要ニーズがある。
	経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・総選挙がある月は売上が滞る。天気も回復し、暑い日が続いたにもかかわらず、若干厳しい月となった。特に前年と比べるとかなり悪い。
	経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・農業を含む幅広い範囲におけるコンサルタントの仕事が増えている。
	経営コンサルタント（代表取締役）	受注量や販売量の動き	・営業先の業績が低迷しており、当社受注も減少傾向にある。
やや悪くなっている	農林水産業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・輸入品が多くなっており、販売価格が上がらないなかで納入価格を上げられず、厳しい状況である。
	電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・電子部品関連の金型関連全般において在庫調整が終わり、かなりの動きが出てくるものと期待をしていたが、その動きは全くない。リピート品の補充のみで新規製品の開発、製作がほとんどないため、状況は非常に悪い。精密機械部品も同様であり、われわれ中小企業において、景気は回復していない。
	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・例年、夏場によく動く飲料であるが、今年はその受注が少ない。またここ数年、年間を通してペットフードの受注が安定していたが、今月は動きが悪く、現在活発に動いている物はない。取引先のデパートでは閑古鳥が鳴くような状態であり、土日さえ客が少ないとのことである。
	輸送業（総務担当）	取引先の様子	・盆過ぎから急に荷動きが悪くなった。
	経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・汚染米の影響で消費者の焼酎離れが続いており、今月も前年比30%の減少で推移している。
	その他サービス業〔物品リース〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・盆休み等による営業日数の減少の影響が若干はあるものの、設備投資意欲は依然として乏しい。また受注の小口化傾向も続いており、3か月前比20%以上の受注減である。

	悪く なっている	農林水産業（営 業）	受注価格や販売 価格の動き	・畜産業界において8月の夏休みに向けて反動増がみられるかと思っていたが、消費者の財布のひもは依然として固く、夏休み明けも売上増は見込めない。 ・新築分譲マンションの売行きが悪い。売却戸数が1けたとなっている世帯数約30戸程度の新築マンションも数棟みられるようになっている。空きがある状態で1年以上経過したマンションも多数見かける。
		不動産業	それ以外	・市町村が建設工事の設計・調査のコンサルタント業務を業者に発注する際、あらかじめ議会で決めていた予算を更に減額するため、業者に見積を出させて競争させ、2～3割程度低くした見積を採用して、発注時の予算額とするようになった。その結果、入札時に最低価格で入札する業者があるため、結果として当初の予算の3～4割で受注するようになっている。
		その他サービス 業	取引先の様子	
雇用 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている			
	変わらない	人材派遣会社 （社員）	採用者数の動き	・就職支援セミナーを開催しているが、受講生の数が落ち着いており、求人数も増えている。内容をみると、正社員採用は少なくパート採用が増えている。
		人材派遣会社 （社員）	求人数の動き	・依然として派遣の注文は増えず、企業の求人は増えているわけではない。中元シーズンであったが、予定人員より削減されたりもした。
		新聞社〔求人広 告〕（担当者）	周辺企業の様子	・取引先の企業の様子をみると、各企業で夏休みが多い。給与の減額や消費の減少で悪い状況が続いており、数か月前と変わらない。
		職業安定所（職 員）	求人数の動き	・一部に改善の兆しはあるものの、ほとんどの産業において新規求人数の減少傾向が続いており、景気は回復基調とは言えない。
		職業安定所（職 員）	求職者数の動き	・新規求職者数の前年割れが継続している。
		学校〔専門学 校〕（就職担 当）	採用者数の動き	・今のところ採用者数の変化はみられない。
		学校〔大学〕 （就職担当者）	求人数の動き	・求人の受理件数は低調である。例年であれば、秋採用に向けて求人情報が届く時期であるが、今年はその兆候があまりみられない。
		やや悪く なっている	人材派遣会社 （社員）	採用者数の動き
		求人情報誌製作 会社（編集者）	求人数の動き	・求人の取扱件数が前月より更に減少している。
		新聞社〔求人広 告〕	求人数の動き	・求人の大型企画において、8月の求人数は3か月前のそれよりも減少している。
		職業安定所（職 員）	求人数の動き	・今月の求人数は前月比5.7%減となっており、前年比も22.3%減となっている。製造業はもとより主要産業のほとんどが前月及び前年と比べて減少している。
		職業安定所（職 員）	周辺企業の様子	・基幹産業である大手造船業が海外との競争により新規受注が取れていない。また主な百貨店の売上高の前年比は16か月連続で減少となっている。大型小売店の売上高も前年比マイナスが続いており、消費マインドの低下が続いている。
		学校〔専門学 校〕（就職担 当）	雇用形態の様子	・景気回復の兆しがみられず、企業の手控え感を感じる。
	悪く なっている	民間職業紹介機 関（社員）	求人数の動き	・上場企業からの求人がほとんどない状態である。これまで派遣を利用していなかった地元企業が試験的に利用しようかという動きがある程度である。
		民間職業紹介機 関（支店長）	求人数の動き	・地域、業種によって求人数は少しずつ上向いているが、依然として前年比5割減の状況である。